# 柴北川プロジェクト通信　３号

平成２１年１０月２０日（火）

## １.佐藤樹医を囲んで勉強会を実施

今回のプロジェクトにおける主要テーマの一つである「山桜資源調査と手入れ」の実施に向けて、山林を主体とした樹木に詳しい樹医の佐藤光さんをお迎えして、山桜の生態及び調査方法に関する勉強会を行いました。

### ■　佐藤樹医の楽しい話を満喫

秋晴れの続く２０日（火）の午後１３時に、共助研からの参加者７名（矢ケ部、木寺、玉田、波多野、濱田、幸野、波木）が、長谷地域黒松地区の黒松公民館に集結しました。

「柴北川を愛する会」からも大塚会長、甲斐副会長を筆頭に９名の参加があり、合同で山桜に関する勉強会を開催した次第です。

講師としてお迎えしたのは、宮崎県高千穂町在住の佐藤光樹医です。佐藤さんは、日本樹木保護協会が認定する全国で９名しかいない「樹医」のお一人で、「株式会社ひむか造園土木」の代表取締役を務めながら、宮崎県や大分県を主なフィールドとして、永く樹木保護の活動・指導に携われてきました。

佐藤樹医を囲んでの勉強会の様子

現場での実践を通して蓄積された佐藤さんの樹木に関するお話は、内容が幅広くかつ奥深く、さらに高千穂での地域づくりにも話題が広がり、２時間の時間を感じさせずに聴講者の興味を引き付ける楽しいものでした。

◆　佐藤樹医のお話から①

（１）日頃の活動について

〇わくすず千年樹の会：「わくすず」とは、水の湧き出るところ。2000 年から補助金なしで植樹する活動をしている。これまでに広葉樹約１万５千本を植樹。

〇民宿「神楽の館」：平均年齢 70 歳のお年寄り９人が出資して、合同会社を設立し、民宿を経営。地域づくり大賞を受賞。年間売上 2700 万円。
金は無くとも、気持ちだけは過疎にならないように活動している。
子供たちが帰ってくるムラおこしをしている。

〇数々の海外体験：89 年にヨーロッパで山岳リゾートの調査。毎日山の中を泊まり歩き、どういう生活をしているかを現地で体験。
93 年は、フランスでエコ・ミュージアムの視察。地域のすべて、さらに一人ひとりが博物館という活動。

佐藤樹医

真剣に聞き入る参加者

◆　佐藤樹医のお話から②

（２）山桜調査と手入れの活動について

・実施計画については、よく練られている。現在の植生状況を地図に落として記録することは大事な取り組み。

・１本１本の元気度を調べて、手入れの必要性を確認することが重要。

・山桜を増やせるのなら、是非増やしていきたい。

（３）質疑

Q1　自生する山桜の適地等の生息条件について、さらに柴北川の山に何故山桜が多いのか？

・山桜は陽樹で、日当たりがよく排水が良い場所を好む。（当地の環境が適している。）

・排水が大事で、水位が高いところはダメ。

・その土地に合う種がある。そこに生えている木をそこに植えることが基本。

Q2　山桜の調査の方法は？

・樹高については、測高機があるが、山中の斜面では目測によることで良い。

・幹周りについては、地上 1.2m の幹を計測する。

・１本１本にナンバリングして、調査結果をまとめる。（ナンバリング用にタッカー等の機材が揃っている。）

・山の中の調査では、何本か選んでの調査で良いのではないか。

・木の下に立って天空を枝がどの程度覆っているかで樹勢がわかる。空が広く見えるようであれば、木は弱っている。

・葉がある時の方が、樹勢は判断しやすい。３月から９月頃までが調査に適する。

・写真を撮るポイントとして、木にも表と裏があることに注意することが必要。太陽が当たる側が表。桜がきれいに、広く大きく見える側から写真を撮る。

・桜は、250～300 年で植え変わる。

・桜の樹齢の測り方については、大分県での基準があるかもしれない。

◆　佐藤樹医のお話から③

Q3　山桜の手入れや管理について

・腐朽した枝等は切って、切断面に野菜用の防腐剤、皮目に墨汁を塗る。
・テングス病が出た場合は、みんな切って回ることが必要。ただし、山桜はテングスに強い。
・枝の広がりと同じ程度に根が広がっている。土壌が良ければ、木は上に伸びていく。
・山桜の根元の竹や笹は切った方がよい。
・周りに杉がある場合は、小さいうちに切った方がよい。大きくなると、杉が勝ってしまう。
・桜は連作を嫌う。その場合には、木炭を入れるなどして土壌を変えるか、離れたところに植えてやるのが良い。
・桜は移植ができる。時期は、葉が出る前の２月頃まで。

Q4　山桜からの展開について

・水源の森づくりには、カシ・シイや桜などの落葉樹が良い。落葉樹の葉の表面の毛が、酸性雨を中和してくれる。酸性雨は、痴ほうや白内障の発生に影響しているらしい。
・桜とあわせて、地域の代表的な木も調査しておくとよい。
・物語のある木に名前をつけたり、「地元学」のような活動につなげていけると素晴らしい。

**佐藤樹医（最前列中央）を囲んで**

## 2.　松厳寺裏の現場を視察

佐藤光樹医の山桜に関する講習を受けた参加者は、黒松公民館近くの松厳寺の裏山について、現場視察に出向きました。柴北川に架かる松厳寺橋で車を降りた一行は、橋の上から、寺の裏山の植生状況を山桜開花最盛期の写真と見比べながら視察し、現地調査に入る際の山桜の位置や調査範囲などについて確認を行いました。

この後に、次の予定がある佐藤樹医は、また高千穂に向けて帰途につかれました。

一方、共助研の一行は、またまた、「柴北川を愛する会」の女性連（通称、柴北レディース）による新米ご飯と豚汁の饗応を受け、この暖かいもてなしに、充実した勉強会とその知識に基づく現地での確認に満足感を覚えながら、来月の現地調査の成功を強く胸に期した次第です。

（以上、文責：波木）

**山桜開花最盛期の松厳寺裏山　（愛する会の高野さん撮影）**

**勉強会参加者一行による松厳寺裏山の現地視察**